

大分県に生まれ、県内の工業学校で漆芸を学ぶ。その後美術家藤井達吉について修行し、上京して名手渡辺喜三郎に師事、また六角紫水の薫陶を受け、富本憲吉とも深い交流があった。光甫の作品には、木地を轆轤引きしたものに彩漆を施したもの、また乾漆で同様に仕上げたものがある。数色の漆を丁寧に重ねた艶やかな独楽塗り・ぼかし塗りが特徴で、主に茶道具を中心に制作を展開した。その静かな趣には派手さは無いものの、師喜三郎から受け継いだ、江戸の粋に通じるシンプルな美学を感じさせる。戦後は晩年まで岐阜県に居を構え活動した。